

店舗一覧

明石市中央部	本店	明石市本町2-3-20	078(912)4567
	駅前支店	明石市桜町11-14	078(911)8181
	丸支店	明石市大蔵天神町4-7	078(912)0337
	林崎支店	明石市林崎町1-4-20	078(922)7431
明石市西部	西明石支店	明石市西明石南町2-14-7	078(923)1101
	市場支店	明石市藤江2029-1	078(921)3020
	大久保支店	明石市大久保町駅前2-1-7	078(936)2165
	井ヶ島支店	明石市大久保町江井島835-1	078(946)0623
	魚住支店	明石市魚住町錦が丘1-12-1	078(947)6799
二見支店	明石市二見町東二見887-1	078(942)1221	
加古川市・高砂市・播磨町	加古川支店	加古川市加古川町寺家町311-3	079(422)6066
	宝殿支店	高砂市神爪1-10-2	079(432)8711
	本荘支店	加古郡播磨町南野添1-2-1	079(435)3270
三木市・小野市・加東市	三木支店	三木市大村63-9	0794(82)5211
	緑が丘支店	三木市緑が丘町東2-9-1	0794(84)1231
	小野支店	小野市上本町237-2	0794(63)1135
	小天滝支店	加東市天神492	0795(47)1011
	野支店	加東市上滝野2413	0795(48)2010
神戸市東部	本山支店	神戸市東灘区田中町3-3-3	078(431)1061
	魚崎支店	神戸市東灘区魚崎南町7-7-7	078(411)3281
	六甲支店	神戸市灘区桜口町3-1-1-107	078(841)0141
	西灘支店	神戸市灘区岸地通4-4-15	078(802)1431
神戸市中央部	神戸支店	神戸市中央区小野柄通5-1-16	078(231)2731
	栄支店	神戸市中央区下山手通3-1-13	078(391)0222
	宇治川支店	神戸市中央区北長狭通7-3-5	078(341)4502
	兵庫支店	神戸市兵庫区浜崎通3-22	078(671)3443
	平野支店	神戸市兵庫区上祇園町4-4	078(361)0411
	板宿支店	神戸市須磨区前池町3-4-1	078(735)6001
神戸市北部	鈴蘭台支店	神戸市北区鈴蘭台北町1-9-1	078(591)1221
	ひよどり台支店	神戸市北区ひよどり台2-1-2	078(743)1621
	藤原台支店	神戸市北区有野中町1-9-14	078(982)2489
神戸市西部	垂水支店	神戸市垂水区神田町3-10	078(706)2222
	舞子支店	神戸市垂水区西舞子2-14-21	078(784)8171
	伊川谷支店	神戸市西区池上2-21-8	078(975)0571
	玉津支店	神戸市西区王塚台7-96-1	078(928)6110
西宮市	西宮今津支店	西宮市今津出在家町1-6	0798(31)2489

〈にっしん〉

2020年9月 仮決算から



彫画:伊藤 太一

We will make a fresh step everyday.



フリーダイヤル イコー ニッシンバンク
0120-15-2489
 (受付時間)平日午前9時から午後5時まで
<https://www.nisshin-shinkin.co.jp/>



ごあいさつ

平素は日新信用金庫に対し格別のご愛顧を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

2020年度上期の日本国内の景気は、新型コロナウイルスの感染拡大による外出自粛や休業の要請、世界的な都市閉鎖等によって経済活動が制限され、戦後最大の落ち込みとなりました。その後、要請や制限の緩和による経済活動再開の動きを受け、Go Toキャンペーン等の政府の経済対策などもあり、生産や消費に持ち直しの動きが見られ、最悪期は脱した形ですが、新型コロナウイルスの新規感染者の収束の気配がない中で、設備投資の手控えや雇用調整の動きも広がりつつあり、景気の本格回復への足取りは重く、实体经济が回復するまでには相当な時間がかかるものと思われまます。

地域の中小企業や小規模事業者においても、先行きに不透明感が強く、資金需要の高まりから、当金庫は2020年9月末において、預金残高は8,360億円、貸出金残高は3,747億円となり、当期純利益はお蔭をもちまして948百万円を計上することができました。

また、経営の健全性を示す自己資本比率は10.89%と、国内基準の4%を大きく上回っており、十分な水準にあります。

仮決算の概況については、次ページ以降に分かりやすくグラフを用いてまとめておりますので、ご一読いただければ幸甚でございます。

依然として、新型コロナウイルス感染症の影響は予断を許さない状況にあります。

〈にっしん〉は今後も「お客さま第一主義」を旨とし、地域住民や中小企業、小規模事業者の方々の課題解決、円滑な資金供給等を通じて、地域社会の持続的発展に貢献し、お客さまと共に豊かな地域の未来を作り上げることに全力で取り組んでまいります。

今後とも変わらぬご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

2020年11月

絆（地域とともに持続的発展を）

- SDGsへの取り組み



〈にっしん〉は、地域金融機関として、国連が提唱する「SDGs（持続可能な開発目標）」に賛同し、これからも、持続可能な豊かな地域の未来創りの実現に向けて取り組んでまいります。

- 〈にっしん〉は、ヴィッセル神戸を応援しています。



2012年から毎年ヴィッセル神戸サッカークリニックを開催しています。(2020年は新型コロナウイルス感染防止のため開催)

- 市民救命士講習会



2020年度新入社員がAEDの取扱いなど、応急措置について指導を受けました。(本店 2020年7月)

お客さまの経営に役立つセミナー

- 小規模事業者持続化補助金セミナー



兵庫県よろず支援拠点と連携してセミナーを開催しました。(本店 2020年7月)

- 雇用関係助成金セミナー



特定社会保険労務士を講師によるセミナーを開催しました。(本店 2020年7月)

さまざまな中小企業の支援機関と連携して、お客さまの経営に役立つセミナーを開催しています。コロナ下で活用できる補助金や助成金について、専門家に詳しく解説していただきました。

地域貢献活動

【三木駅再生おうえん定期】

三木駅舎の再生のため、お預けいただいた定期預金の0.05%相当額を三木市へ寄付しました。(募集総額10億円)
(三木市内の2店舗)
取扱期間：2020年4月6日～6月12日



三木市への贈呈式(2020年7月)

【明石市子育ておうえん定期預金】

お預けいただいた定期預金の0.01%相当額を「明石市子ども基金」へ寄付し、明石市の子育て支援事業の運営に活用していただきます。(募集総額50億円)
(明石市内の10店舗)
取扱期間：2020年4月6日～6月12日
2020年9月7日～10月30日



【神戸市子育ておうえん定期預金】

お預けいただいた定期預金の0.01%相当額を神戸市の子育て支援事業の運営に活用していただきます。(募集総額50億円)
(神戸市内の17店舗)
取扱期間：2020年4月6日～6月12日
2020年9月7日～10月30日



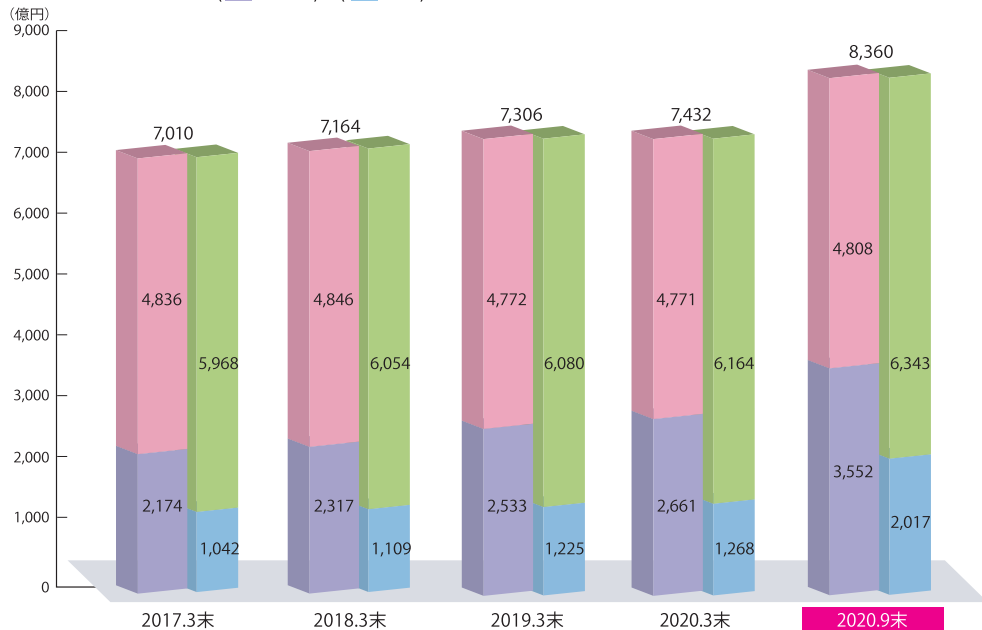
店 舗

- 神戸支店



2020年9月7日 現地建替え新築オープンいたしました。

〈預金〉



【預金】

預金は、2020年3月末対比928億円増加し8,360億円となりました。毎年3月末に地方公共団体等の預金が一旦引き出されることから、実際増加額は742億円となります。

定期性預金は微増となり、流動性預金は大幅に増加となりました。これは、新たなお客さまが増えたことに加え、新型コロナウイルス関連融資の滞留金や持続化給付金・特別定額給付金の滞留金が増えたことが主な要因です。

今後もお客さまの様々なご要望やご意見にできる限りお応えし、皆さまに喜ばれるサービスを目指してまいります。

【貸出金】

貸出金は、2020年3月末対比303億円増加し3,747億円となりました。これは、新型コロナウイルス感染による、お客さまの資金繰り支援に積極的に取り組んだ結果、新しいお客さまが増え、保証協会保証付貸出等の事業性貸出金が290億円増加したことが主な要因です。預貸率は1.51ポイント低下しましたが、これは預金の増加額が貸出金の増加額を大きく上回ったためです。

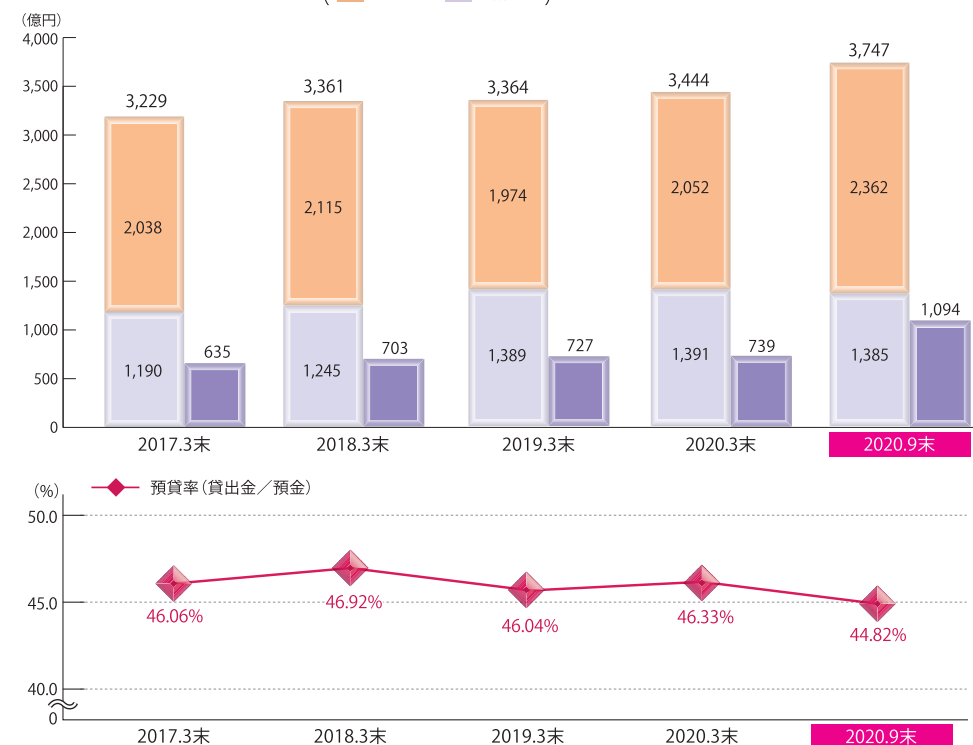
今後も地域の皆さまがかかえておられる課題の解決に全力で取り組み、適切で円滑な資金提供に努めてまいります。

【業種別構成比】

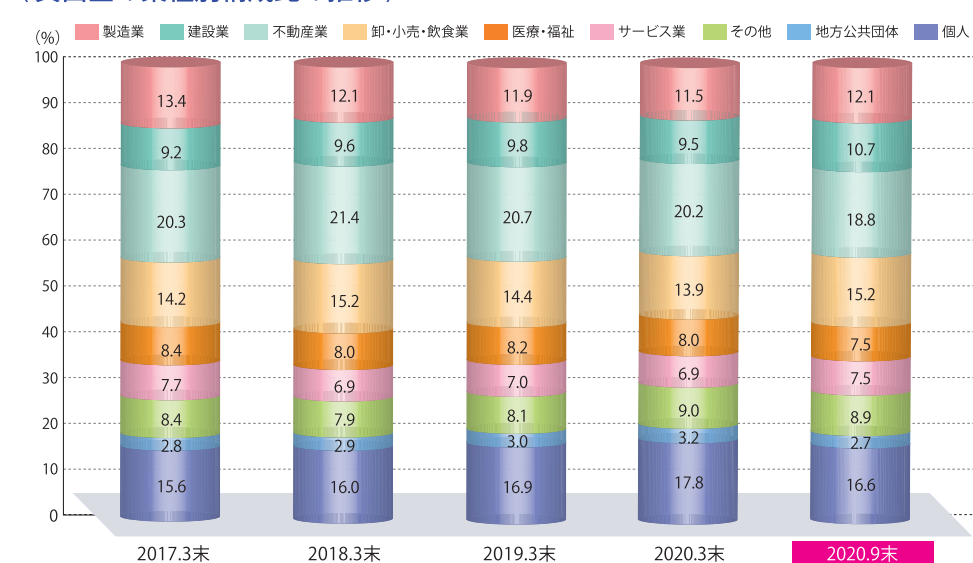
貸出金の業種別構成比の推移をみると、2020年3月末と比較し、卸・小売・飲食業で1.3ポイント、建設業で1.2ポイント、製造業で0.6ポイント増加し、新型コロナウイルス関連融資金を必要とされた業種が大きく伸びましたが、それに反して、不動産業で1.4ポイント、個人で1.2ポイント、医療・福祉、地方公共団体でそれぞれ0.5ポイントの減少となっています。

個人向けの貸出金の構成比が減少していますが、これは住宅ローンの増加の割合に比べて、新型コロナウイルス関連融資による事業性貸出金の増加の割合の方が大きいことによりです。

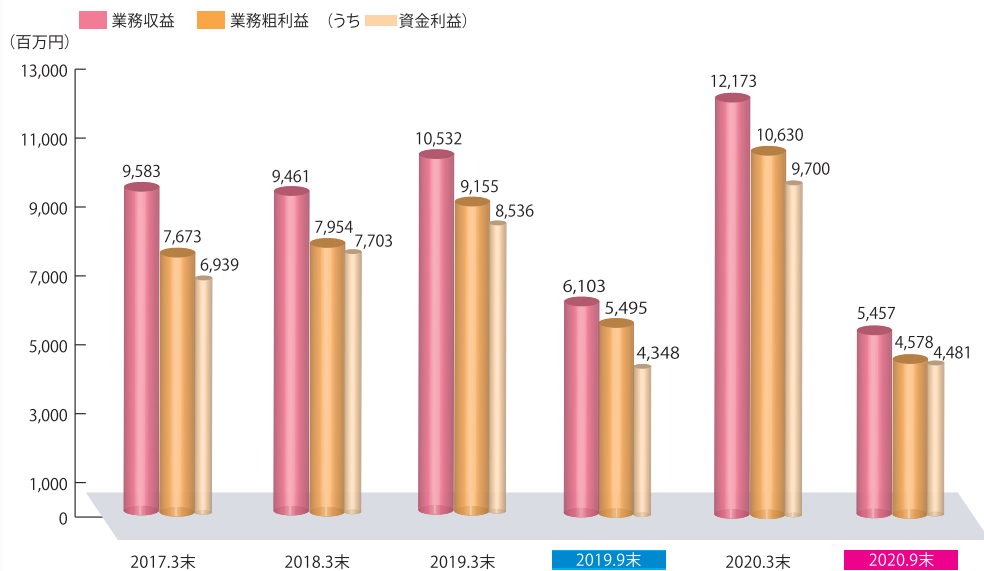
〈貸出金と預貸率〉



〈貸出金の業種別構成比の推移〉



〈業務収益、業務粗利益(うち資金利益)〉

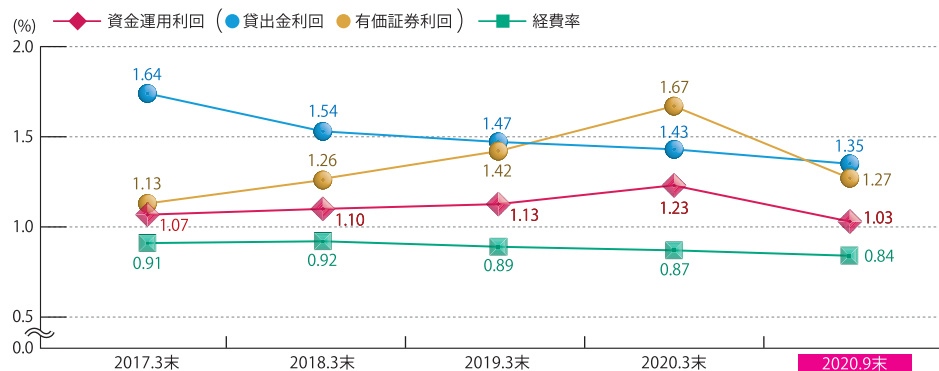


一般企業の売上に当たる業務収益(貸出金利息収入、有価証券等運用収入、役務取引収入等)は、有価証券利息配当金収入は増加したものの、貸出金利息収入や預け金利息収入が減少し、債券売却を控えたことから、前年同月に比べて646百万円の減収になりました。

業務粗利益(業務収益－預金利息等の原価)は、業務収益の減収とコロナショックで下落した有価証券の一部を売却したことにより、前年同月に比べて916百万円の減益となりました。

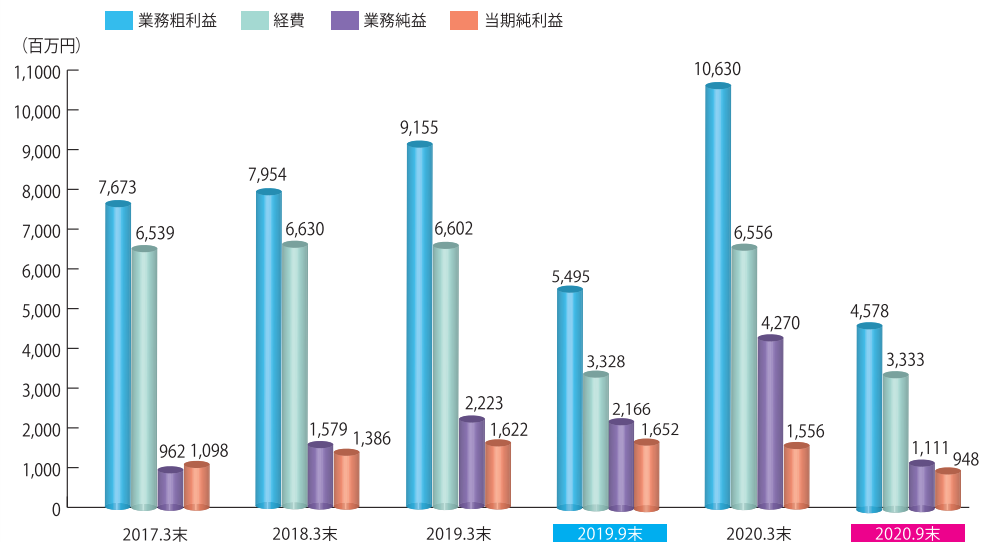
資金利益(貸出金と有価証券運用から発生する利益－預金支払利息)は、貸出金利息収入や預け金利息収入が減少したものの、有価証券利息配当金収入が増加したことから、前年同月に比べて133百万円の増益となりました。

〈資金運用利回(貸出金利回+有価証券利回)、預金利回、経費率、利ざや〉



〈業務粗利益、経費、業務純益(業務粗利益－経費等)、当期純利益〉

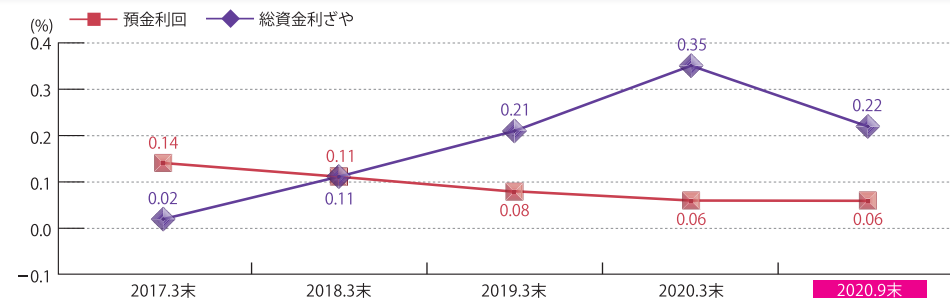
[参考] 業務粗利益－(経費＋一般貸倒引当金繰入額)＝業務純益



経費は消費税の増加などにより、前年同月に比べて4百万円増加の3,333百万円となりました。

業務純益は、債券売却を控えたことから、前年同月に比べて1,055百万円減少の1,111百万円となりました。

当期純利益は、株式等売買損益が192百万円増加したものの業務純益が減少したことから、前年同月に比べて704百万円減益の948百万円となりました。

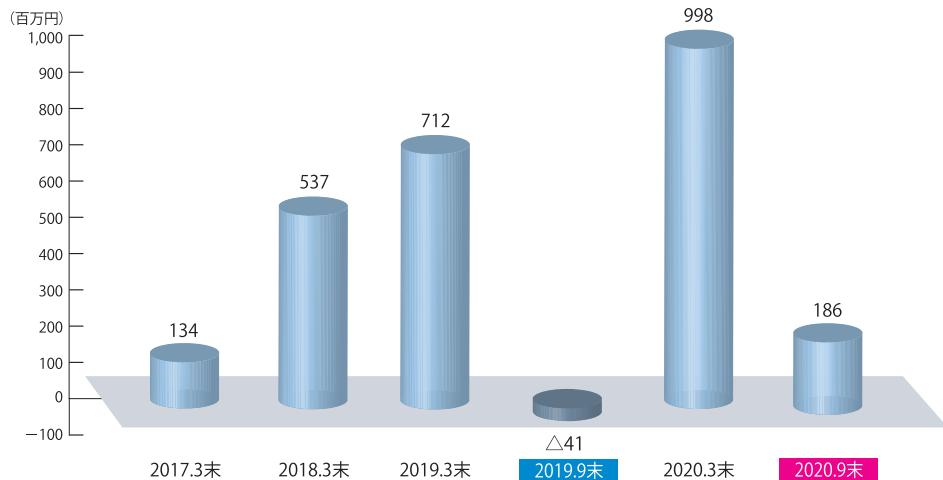


資金運用利回は、世界的な低金利環境で有価証券利回りが低下し、貸出金利回も新型コロナウイルス感染症対応融資などの低金利融資の増加により1.03%になりました。

総資金利ざやは、資金運用利回りが低下したことから0.22%になりました。

これからも収益力の強化に努めてまいります。

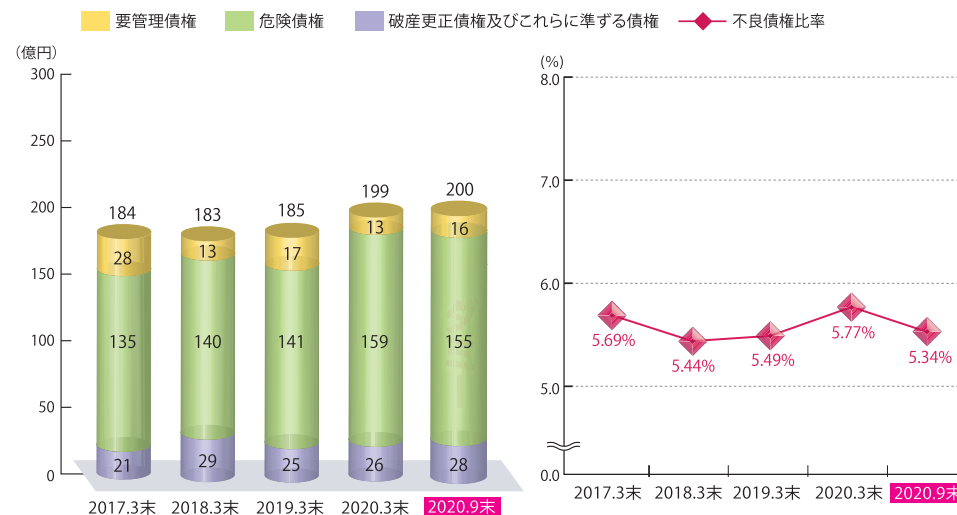
〈貸出金にかかる不良債権処理費用等*〉 *貸出金にかかる不良債権処理費用等は、一般貸倒引当金純繰入額、個別貸倒引当金純繰入額、債権償却額等の合計額です。



2020年9月末の不良債権処理費用等は、186百万円の増加となりました。これは新型コロナウイルスの影響を勘案し、不良債権の将来の発生を見越して、積極的な引当を実施したことによるものです。

貸出債権の不良化防止に向けて今後も、経営改善支援や融資審査能力向上に努めると共に、将来のために引当も十分に行ってまいります。

〈不良債権(金融再生法上の開示債権)の内訳と不良債権比率〉



不良債権は、要管理債権、危険債権及び破産更生等債権に分類されます。2020年9月末の不良債権残高は200億円となり、2020年3月末に比べて1億円の増加となりました。しかし、貸出金も大きく増加したことから、不良債権比率は5.34%となり、2020年3月末に比べて0.43ポイント低下しました。

事業性評価や外部支援等を活用して、お客さまの経営改善に一体となって取組み、不良債権の減少に努めてまいります。

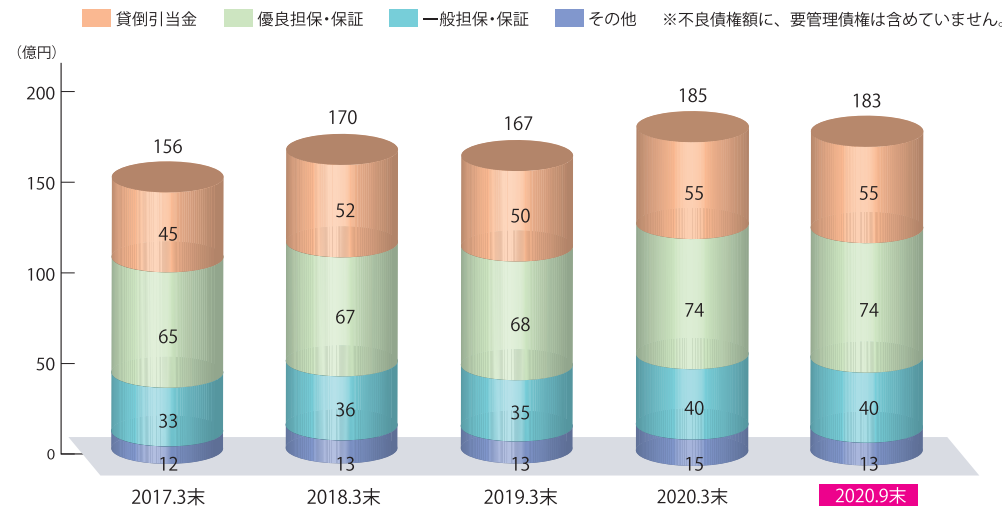
〈不良債権(要管理債権を除く)の保全状況〉

2020年9月末の不良債権(要管理債権を除く)は183億円ですが、その保全状況は右の通りです。

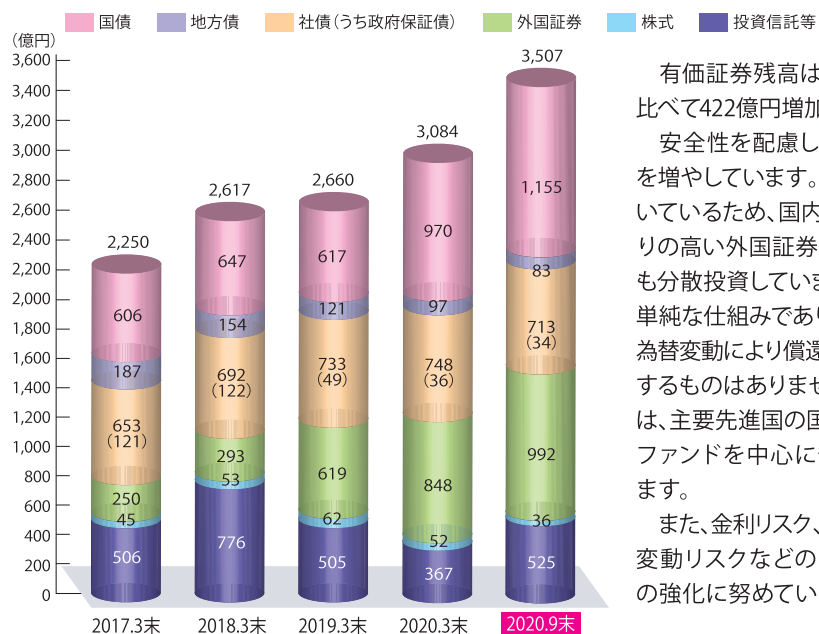
貸倒引当金は55億円計上しています。貸倒引当金として計上している55億円は、会計上では、損失処理済といえます。

優良担保・保証(保証協会保証等)で保全されている金額74億円、一般担保(土地・建物等)・保証で保全されている額40億円、合わせて114億円については、回収が確実であると見込んでいる額です。

残りの13億円は、これまでの回収実績等から見て回収可能と見込まれる額です。

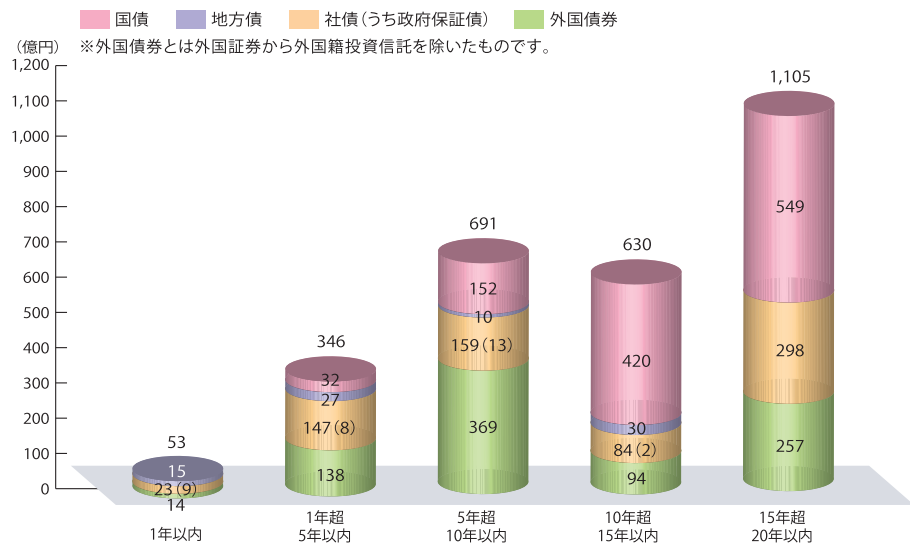


〈有価証券の種類別保有状況(2020年9月30日現在)〉



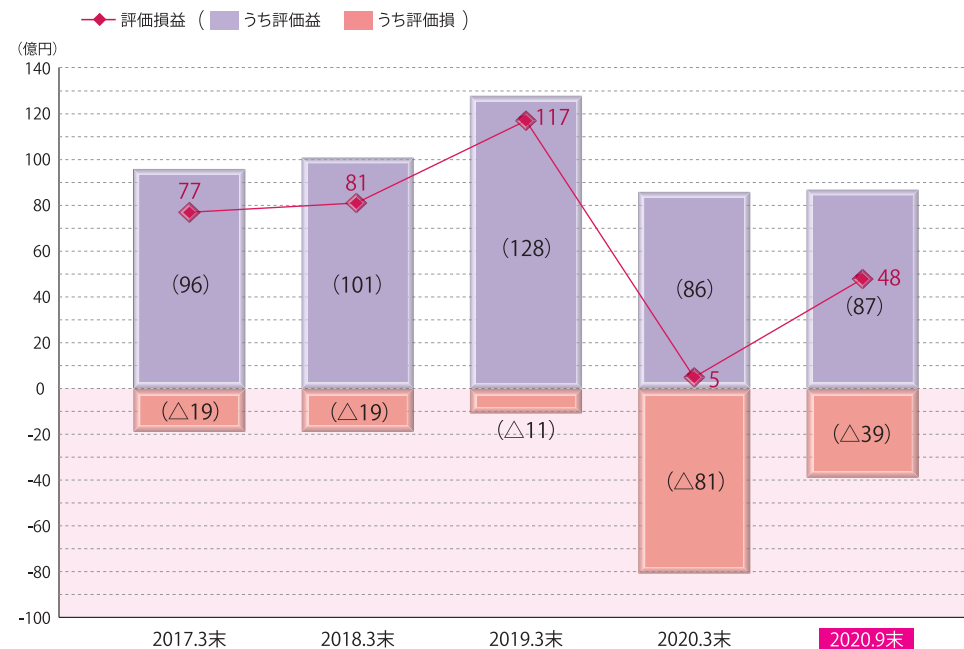
有価証券残高は2020年3月末に比べて422億円増加しました。
 安全性を配慮して国債への投資を増やしています。低金利環境が続いているため、国内債に比べて利回りの高い外国証券や投資信託等にも分散投資しています。外国証券は単純な仕組みであり、全て円建てで為替変動により償還時の元本を毀損するものではありません。投資信託等は、主要先進国の国債を対象としたファンドを中心に分散投資しています。
 また、金利リスク、為替リスク、価格変動リスクなどのリスク管理態勢の強化に努めています。

〈債券(償還までの期間別に見た残高)(2020年9月30日現在)〉

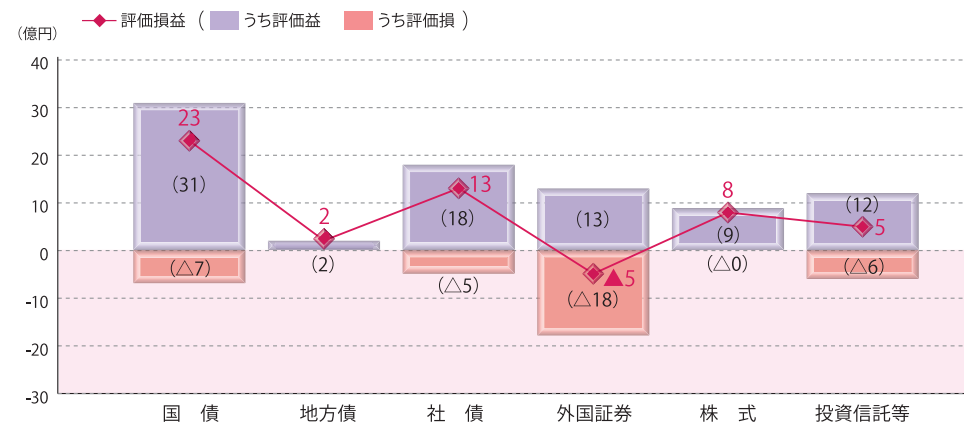


有価証券のうち株式及び投資信託等を除いた債券について、その償還までの期間別に保有残高を示したグラフです。期間10年以内の国債の利回りは0%付近もしくはマイナス金利であるため、期間10年超20年以内の国債、地方債、社債、外国債券にも投資しています。なお、期間20年超の債券への投資は行なっていません。

〈有価証券の評価損益の推移〉

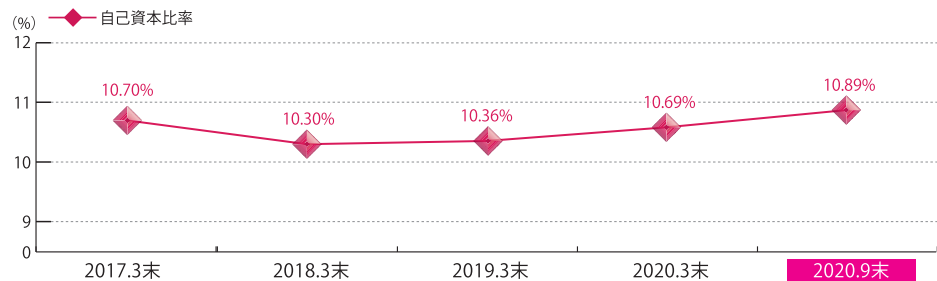
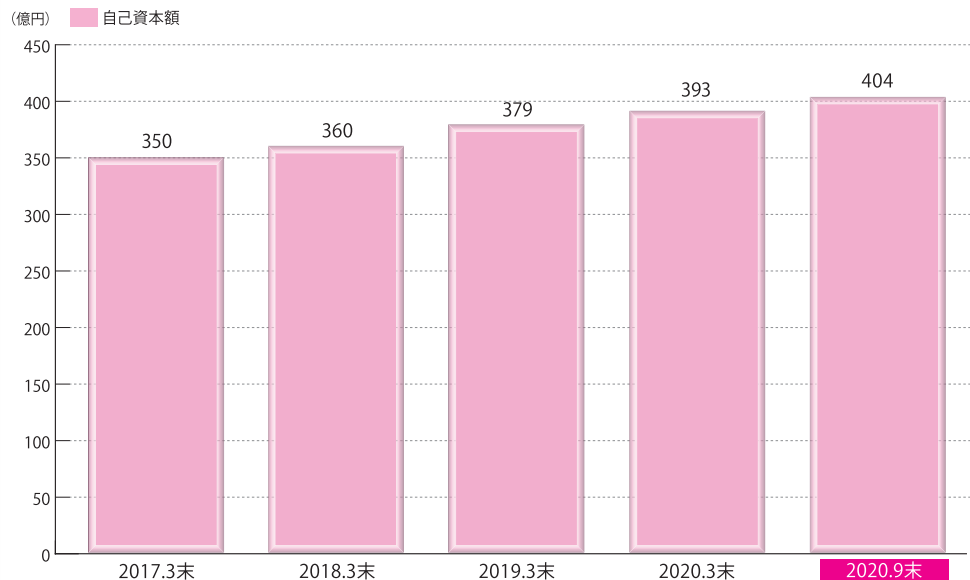


〈有価証券の種類別の評価損益(2020年9月30日現在)〉



2020年9月末の有価証券の評価損益は差引48億円の評価益となり、2020年3月末と比べて43億円の増加となりました。なお、外国証券の評価損益がマイナスとなっているのは新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大で時価が下落したためですが、2020年3月末と比べると46億円改善しています。

〈自己資本と自己資本比率(信用金庫単体)〉



(億円)

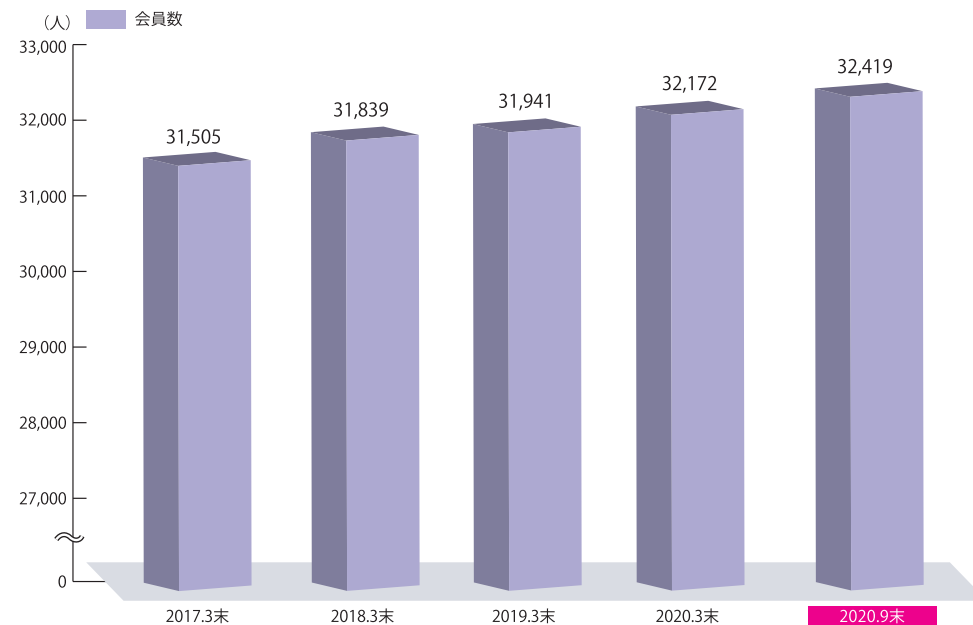
	2017.3末	2018.3末	2019.3末	2020.3末	2020.9末
リスクアセット	3,271	3,500	3,660	3,680	3,713

自己資本比率は、2020年9月末で10.89%となりました。

〈にっしん〉の自己資本比率は、有価証券の増加などによってリスクアセットが増加したものの、自己資本の額も増加したことから、2020年3月末に比べて0.20ポイント向上しました。国内基準である4%を大きく上回り、経営の健全性、安全性を十分に堅持していると考えています。

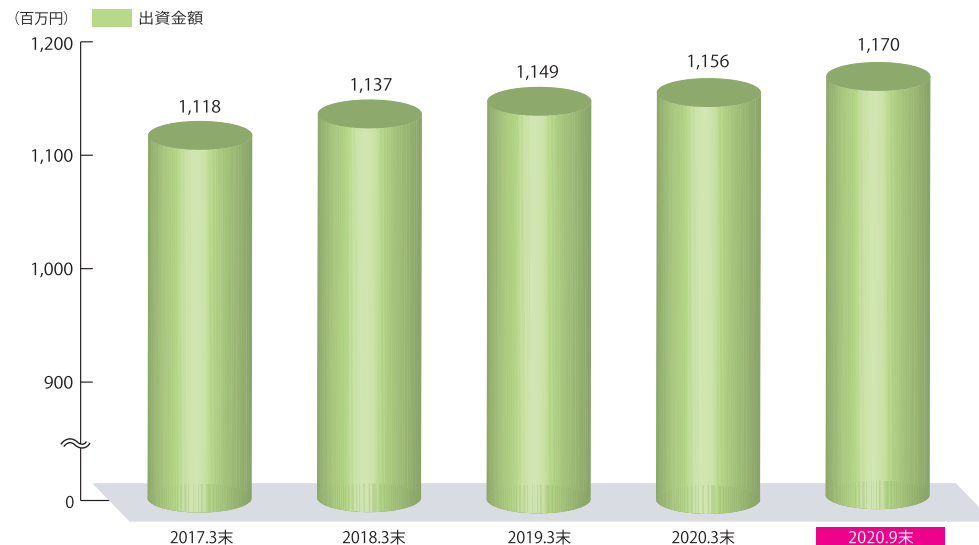
これからも、事業活動を通じて得る収益によって自己資本の充実を図ってまいります。

〈会員数〉



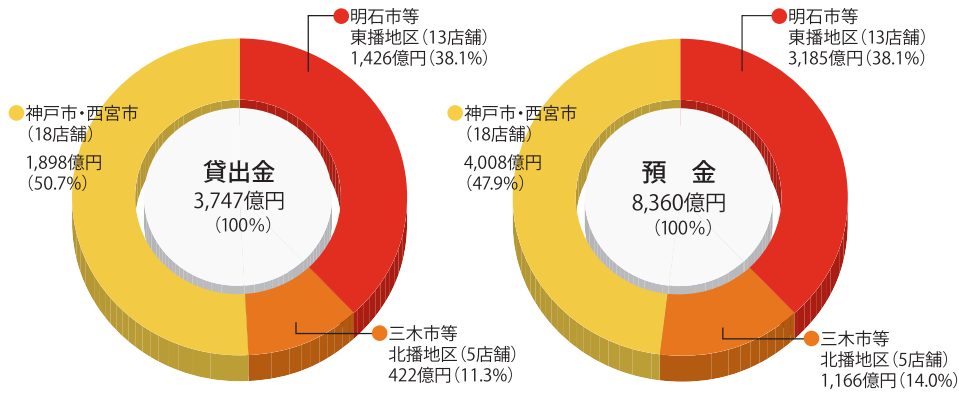
新規融資先の増加により、会員数が増加しています。

〈出資金額〉

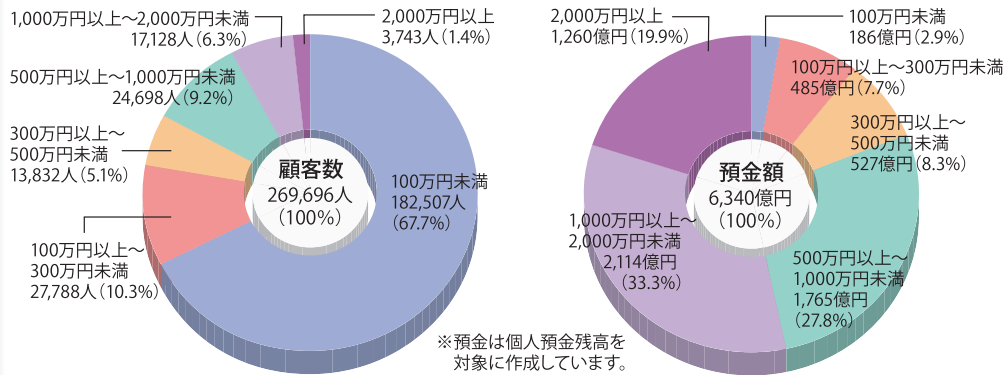


会員数の増加に伴い、出資金額も増加しています。

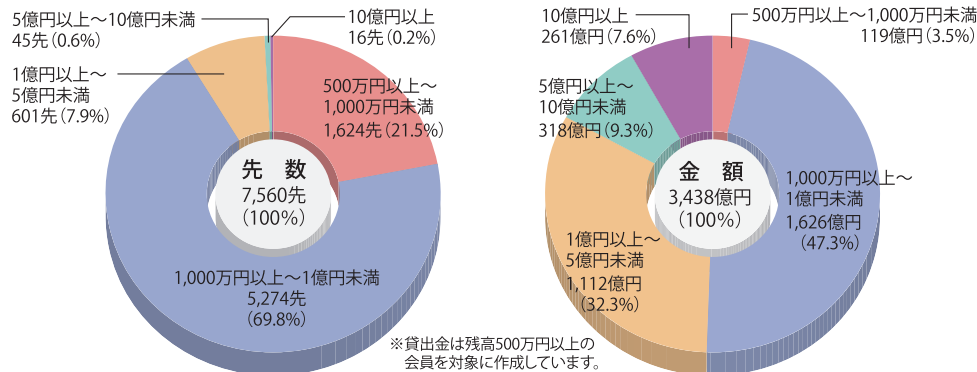
〈貸出金・預金の地域別構成〉 (2020年9月30日現在)



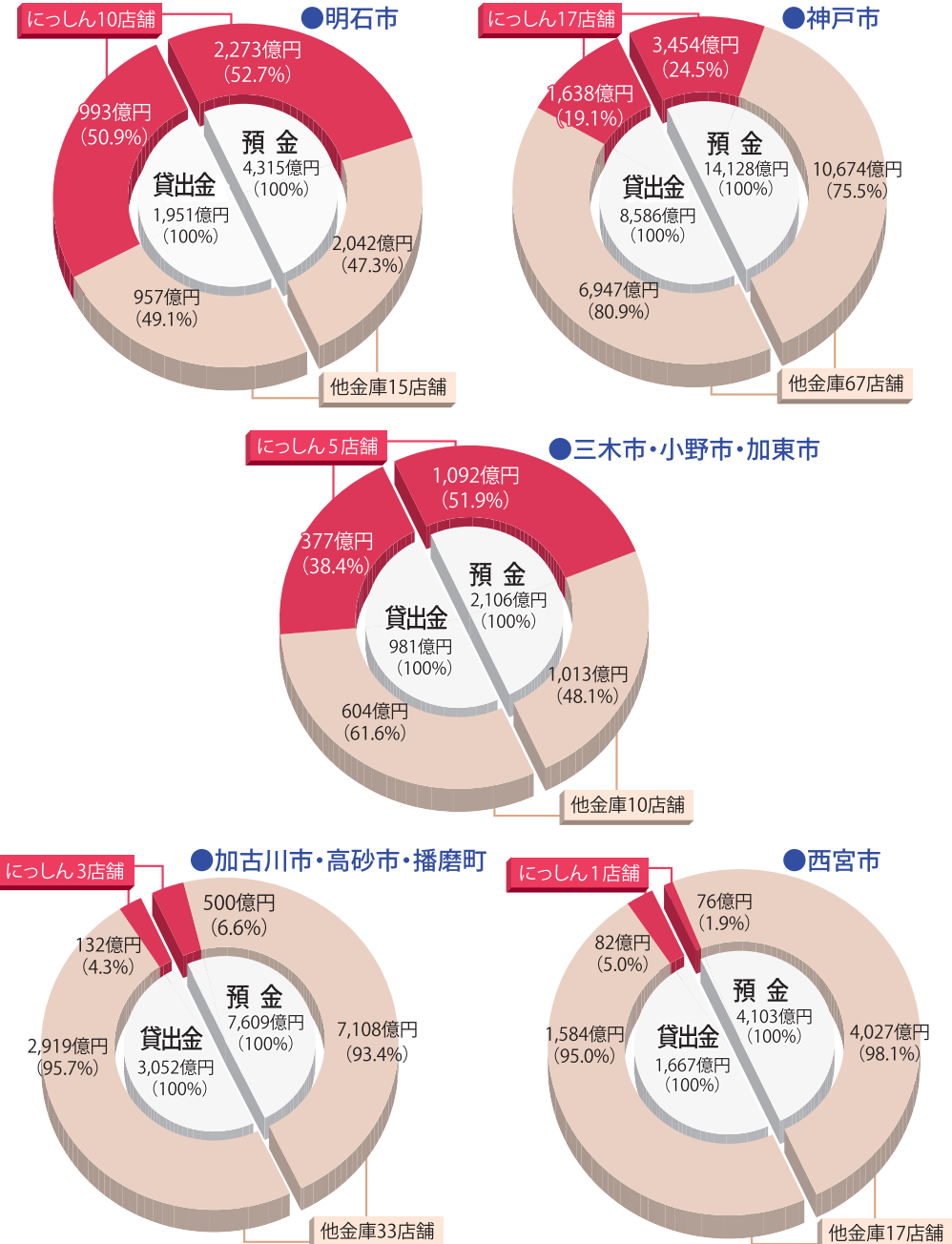
〈預金者のプロフィール〉〈個人預金の残高階層別に応じた顧客数と預金額〉 (2020年9月30日現在)



〈貸出先のプロフィール〉〈貸出金の残高階層別に応じた先数と金額〉 (2020年9月30日現在)



〈信用金庫の中での〈にっしん〉のシェア〉 (2020年3月31日現在)



1. 資産・負債等の状況

(単位:百万円)

資産の部	2019年9月末	2020年9月末	前年同期比
現金・預け金	196,138	294,704	98,566
コールローン	—	—	—
有価証券	309,149	350,726	41,577
貸出金	343,407	374,759	31,351
事業性貸出金	273,474	302,341	28,867
貸倒引当金	△ 5,938	△ 6,453	△ 515
うち個別貸倒引当金	△ 5,095	△ 5,553	△ 458
資産の部合計	854,289	1,025,930	171,641

(単位:百万円)

負債及び純資産の部	2019年9月末	2020年9月末	前年同期比
預金・積金	747,379	836,070	88,690
個人預金	602,966	634,321	31,355
借入金	50,200	142,000	91,800
負債の部合計	805,114	982,590	177,476
出資金	1,152	1,170	17
利益剰余金	37,882	38,688	806
その他有価証券評価差額金	10,139	3,480	△ 6,658
純資産の部合計	49,174	43,339	△ 5,834
負債及び純資産の部	854,289	1,025,930	171,641

※借入金の資金調達先はすべて日本銀行です。貸出増加支援資金供給や新型コロナウイルス感染症対応金融支援特別オペレーションにかかる資金供給を利用したもので、利率はすべて0%です。

2. 損益の状況

(単位:百万円)

項 目	2019年9月末 (2019年4月1日～9月30日)	2020年9月末 (2020年4月1日～9月30日)	前年 同期比
業務粗利益……………②	5,495	4,578	△ 916
うち資金利益	4,348	4,481	133
うち役員取引等利益	122	113	△ 8
うちその他業務利益	1,025	△ 16	△ 1,042
一般貸倒引当金繰入額③	—	133	133
経費……………④	3,328	3,333	4
業務純益……………①	2,166	1,111	△ 1,055
実質業務純益……………⑤	2,166	1,245	△ 921
臨時損益……………⑦	125	208	82
うち個別貸倒引当金繰入額	—	52	52
うち株式関係損益	151	343	192
経常利益……………⑥	2,292	1,320	△ 972
特別損益	△ 0	0	1
税引前当期純利益……………⑨	2,291	1,321	△ 970
当期純利益……………⑧	1,652	948	△ 704

■主な項目の計算方法

- ①業務純益 = ②業務粗利益 - ③一般貸倒引当金繰入額 - ④経費
 ⑤実質業務純益 = ①業務純益 + ③一般貸倒引当金繰入額
 ⑥経常利益 = ①業務純益 + ⑦臨時損益
 ⑧当期純利益 = ⑨税引前当期純利益 - 法人税等合計

3. 業種別貸出金の状況

(単位:百万円、%)

内 訳	2019年9月末		2020年9月末		前年 同期比
	残高	構成比	残高	構成比	
製造業	40,705	11.9%	45,176	12.1%	4,471
農業・林業	75	0.0%	44	0.0%	△ 31
漁業	—	—	—	—	—
鉱業・採石業・砂利採取業	—	—	—	—	—
建設業	33,848	9.9%	40,254	10.7%	6,406
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—	—
情報通信業	1,275	0.4%	1,310	0.3%	35
運輸業・郵便業	14,273	4.2%	15,972	4.3%	1,699
卸売業・小売業	41,256	12.0%	48,236	12.9%	6,980
金融業・保険業	14,918	4.3%	16,010	4.3%	1,092
不動産業	68,414	19.9%	70,269	18.8%	1,855
物品賃貸業	3,579	1.0%	1,717	0.5%	△ 1,862
学術研究・専門・技術サービス業	1,778	0.5%	2,794	0.7%	1,016
宿泊業	2,236	0.7%	2,851	0.8%	615
飲食業	7,117	2.1%	8,717	2.3%	1,600
生活関連サービス業・娯楽業	3,036	0.9%	5,545	1.5%	2,509
教育・学習支援業	412	0.1%	591	0.2%	179
医療・福祉	27,533	8.0%	28,223	7.5%	690
その他のサービス	13,014	3.8%	14,624	3.9%	1,610
小 計	273,474	79.7%	302,341	80.8%	28,867
地方公共団体	10,901	3.2%	10,207	2.7%	△ 694
個人(住宅・消費・納税資金等)	59,031	17.1%	62,209	16.5%	3,178
合 計	343,407	100.0%	374,759	100.0%	31,352

4. 有価証券の状況

有価証券の時価情報

(単位:百万円)

内 訳	2019年9月末				2020年9月末			
	時価	評価損益	うち益	うち損	時価	評価損益	うち益	うち損
その他有価証券	290,190	14,050	15,063	1,013	350,726	4,819	8,749	3,929
国 債	65,926	4,561	4,592	30	115,596	2,313	3,104	790
地方債	11,701	377	377	—	8,354	284	284	—
社 債	76,254	3,271	3,271	0	71,338	1,300	1,849	548
うち 政府保証債	4,253	104	104	0	3,477	61	61	0
うち 公社公債	6,358	700	700	—	6,166	536	536	—
うち 金融債	—	—	—	—	—	—	—	—
うち 事業債	65,642	2,466	2,466	0	61,694	702	1,251	548
外国証券	68,453	1,293	1,862	568	99,201	△ 523	1,308	1,832
株 式	5,399	1,793	1,807	13	3,681	845	944	99
うち子会社・関連会社株式	149	—	—	—	149	—	—	—
投資信託	62,393	2,734	3,134	399	52,491	581	1,240	658
その他	62	18	18	—	61	16	16	—
満期保有目的の債券	19,667	708	708	—	—	—	—	—
国 債	11,188	343	343	—	—	—	—	—
外国証券	8,478	365	365	—	—	—	—	—
売買目的有価証券	—	—	—	—	—	—	—	—

* 評価損益は、9月末の帳簿価格(償却原価法適用後、減損処理後)と時価の差額を計上しています。

* 時価は9月末の市場価格等に基づいています。なお、子会社・関連会社株式、非上場株式、組合出資金については市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから当該帳簿価格を時価としています。

5. 決算の状況

(単位:百万円)

項 目	2019年9月末	2020年9月末
業 務 純 益	2,166	1,111
経 常 利 益	2,292	1,320
コア業務純益 (投資信託解約損益を除く)	1,156 (1,057)	1,278 (822)
当 期 純 利 益	1,652	948

6. 自己資本の状況

単体自己資本比率

(単位:百万円)

(単位:百万円)

項 目	2019年9月末	項 目	2020年9月末
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額 (A)	39,035	普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額 (A)	39,859
うち出資金及び資本剰余金の額	1,152	うち出資金及び資本剰余金の額	1,170
うち利益剰余金の額	37,882	うち利益剰余金の額	38,688
うち外部流出予定額(△)	—	うち外部流出予定額(△)	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額 (B)	880	コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額 (B)	955
うち一般貸倒引当金コア資本算入額	880	うち一般貸倒引当金コア資本算入額	955
コア資本に係る基礎項目の額(A+B) … (C)	39,915	コア資本に係る基礎項目の額(A+B) … (C)	40,814
コア資本に係る調整項目の額 …… (D)	395	コア資本に係る調整項目の額 …… (D)	349
自己資本の額 (C-D) …… (E)	39,520	自己資本の額 (C-D) …… (E)	40,465
リスク・アセット等の額の合計額 …… (F)	373,844	リスク・アセット等の額の合計額 …… (F)	371,356
単体自己資本比率 (E)/(F)	10.57%	単体自己資本比率 (E)/(F)	10.89%

(注) 自己資本比率の算出方法を定めた「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第21号)」に基づき算出を行なっています。なお、当金庫は国内基準を採用しています。

自己資本の質の向上を図るため、2014年3月のパーゼルIII適用により、これまでの補完的資本とされていた劣後債や劣後ローン等を外し、出資金、利益剰余金、一般貸倒引当金などの合計から調整項目を控除したものが「コア資本」と定義されました。

■ 本誌では、単位未満を切り捨てて表示しています。したがって、項目ごとを加減算した場合、合計欄および増減欄の数値と一致しない場合があります。
■ 本誌に掲載している数値については、会計監査人による監査を受けていません。

7. 自己資本の構成(単体)

(単位:百万円)

項 目	2019年9月末	2020年9月末
コア資本に係る基礎項目(1)		
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	39,035	39,859
うち、出資金及び資本剰余金の額	1,152	1,170
うち、利益剰余金の額	37,882	38,688
うち、外部流出予定額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	880	955
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	880	955
コア資本に係る基礎項目の額(イ)	39,915	40,814
コア資本に係る調整項目(2)		
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く)の額の合計額	88	41
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	88	41
前払年金費用の額	307	307
コア資本に係る調整項目の額(ロ)	395	349
自己資本		
自己資本の額(イ)-(ロ)=(ハ)	39,520	40,465
リスク・アセット等(3)		
信用リスク・アセットの額の合計額	358,462	354,319
資産(オン・バランス)項目	347,832	337,314
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	△ 3,677	△ 3,677
うち、無形固定資産(のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く)	—	—
うち、前払年金費用	—	—
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	△ 3,677	△ 3,677
オフ・バランス取引等項目	10,193	16,739
CVAリスク相当額を8%で除して得た額	436	266
オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額	15,382	17,037
リスク・アセット等の額の合計額(ニ)	373,844	371,356
自己資本比率((ハ)/(ニ))	10.57%	10.89%

●オペレーショナル・リスク「基礎的手法」の算出方法

粗利益(直近3年間のうち正の値の合計額)×15%
直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数 ± 8%

8. 不良債権の状況

金融再生法開示債権残高

(単位:百万円)

区 分	2019年9月末	2020年9月期(A)	前年同期比
	債権額	債権額	前年同期比
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	2,630	2,860	230
危険債権	14,217	15,537	1,320
要管理債権	1,620	1,669	49
不良債権合計	18,468	20,067	1,599
正常債権	325,973	355,607	29,634
合 計	344,441	375,675	31,234
不良債権比率	5.362%	5.342%	△ 0.020%

保全状況(2020年9月末)

(単位:百万円)

区 分	担保・保証額 (B)	担保・保証のない部分 (C)=(A)-(B)	引当額 (D)	(C)に対する引当率 (D)/(C)	保金額 (E)=(B)+(D)	保全率 (E)/(A)
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	1,505	1,355	1,355	100.00%	2,860	100.00%
危険債権	9,939	5,598	4,198	74.99%	14,138	91.00%
要管理債権	706	962	263	27.34%	970	58.12%
不良債権合計	12,152	7,915	5,817	73.49%	17,969	89.55%

■ 本誌では、単位未満を切り捨てて表示しています。したがって、項目ごとを加減算した場合、合計欄および増減欄の数値と一致しない場合があります。
■ 本誌に掲載している数値については、会計監査人による監査を受けていません。